

Contents

巻頭言	二本足で立つ理科教師 福井大学 理事(企画戦略担当)・副学長 松木 健一	受講者だより	・『子どもの学びを「探求的」に変える』 ・『教育学から考える恐竜博物館の歩き方』 ～親子で楽しむ博物館のスズメ～
TOPIC	第4期 福井 CST 地域支援拠点(小学校)4校が決定しました	お知らせ	・「第31回福井 CST 合同研修会」のご案内 (第28回 福井 CST 公開セミナー)
Pick up!	・第30回福井 CST 合同研修会を開催しました (第27回 福井 CST 公開セミナー)		

巻頭言 二本足で立つ理科教師

福井大学 理事(企画戦略担当)・副学長 松木 健一

私の学生時代、民間の教育運動が盛んであった。私は仙台にいたので極地方式の理科の授業研究に遭遇することが多かった。高橋金三郎や細谷純の発する言葉一つ一つが輝いて私の耳に届いた。特に細谷純の学部生対象の「教育心理学」の授業は、大学院に進学してからも聴講していたから、何度同じ授業を受講したことだろう。同じところで同じ冗談を言う大学教員もいる中で、細谷もきっと同じ話をするのに違いない。そんな当てつけを心ひそかに確かめようとする嫌味な学生を見透かすように、彼は同じ授業をしなかった。いや、授業の大まかな筋立ては同じであったかもしれない。しかし、取り上げられる理科の実践例や心理学の例が異なっていた。あるいは、私自身も実践(今風に言えば障害児教育の実践)に身を置いていたので仮に同じ内容の話であってもその話を機に実践の意味を再構成することができ、いつも新鮮な思いで授業に参加していた。今思うと、細谷も理科の授業研究を通して進化し続けていたのであろう。だから大学の授業が面白かった。

ところで、細谷は教育心理学の教授であったが、理科に関する科学的知見は、(双方に失礼な物言いになるが)そこらの理学部の先生に引けを取らなかった。もちろん教育心理学者としても時の学会風潮に平伏しない際立った人物でもあった。特に比較研究はしない。教育を行う者が、実験群と比較群(効果がないと思われる方法論の群)を設定することはしないが持論であった。

細谷は、足場を二つ持つことで、片方の持つ常識をたえず疑うことができたのではないだろうか。理科の実践の場から眺めることで、心理学の常識を疑い、心理学の歴史的経過を省察することで、理科の授業の当たり前が滑稽に見えていたのではないか。そして、高橋金三郎のような盟友を持つことで、深い対話の機会を持っていたのである。

どちらかというとながティブなイメージになりがちだが、優れた実践研究者には「二足の草鞋」が必要なのだろう。優れた理科教師は、二本の足で立っているのである。一本目の足は言わずもがな「学習者中心の学習観」である。子どもの思い、子どもの思考のプロセスを筋立てて、関心の方向性を開く「学びを組織する専門性」である。この専門性は、悲しいかな現実の縛りの中で、しばしば立ち往生してしまう脆さを持っている。だから、たえず心ある教師と実践を語り合い、自身の専門性を再確認し合わなければならない生で(生きていて)デリケートな専門性なのである。こんな専門性を育む場として、大学は便利な所である。むしろ、役立つところであれば、地方国立大学の存在意義がないのであろう。

もう一本の足は、とことん事象・事物の変化にこだわる探究者の姿勢である。だから教師は「学びの専門家」でなければならない。そして、探究者であるためには、まずは試しにやってみる(実験する)勇気を持つことと、当該分野に蓄積された知見が必要である。この知見は、あらかじめ習得しておけば役立つような代物ではない。状況に即して知識を再構築する必要がある。また、その知識は探究を邪魔もするし、援けてもくれる両刃の剣でもある。だから探究者同士の対話の場が欠かせない。理科の知識を再構築し、理科の探究を推し進めるのには、この意味においてもやはり大学は便利な所である。

理科教師が二本足でしっかり地面をつかんで立つためには、CSTは必要な機会であるように思う。そして、CSTの活動に福井大学が貢献できることが大学にとっても重要なことである。なぜなら教員養成は就業前4年間の教育から、教師の生涯にわたる職能成長を支える機関に転換しなければならないからである。CSTのこれからの活動を楽しみにしたい。

TOPIC

令和4年度～令和6年度 地域支援拠点校(小学校)一覧

	福井大学担当教員	
福井・吉田地区	福井市森田小学校	山田 吉英
坂井地区	坂井市立春江小学校	西沢 徹
鯖丹地区	鯖江市吉川小学校	保科 英人
二州地区	敦賀市立中央小学校	浅原 雅浩

第4期 福井CST地域支援拠点(小学校)4校が決定しました

県内7ブロックのうち4ブロック(4校)を先行して決定しました。

本拠点を中心として公開授業、研究会、実験講習会など対面やオンラインでの研修が企画される予定です。本プログラムで養成されたCSTの活躍の場ともなります。ご期待ください。

第30回福井CST合同研修会（第27回福井CST公開セミナー）を開催しました

令和4年6月24日(金)Web会議システム Zoom
を利用して開催し、31名の参加がありました。

プログラム

19:00～19:05	開会挨拶
19:05～20:00	ワンポイントセミナー
20:00～20:05	休憩
20:05～20:20	活動報告
20:25～20:40	卒業研究発表
20:45～20:50	新メンバー紹介と諸連絡

内容

◆ワンポイントセミナー

「小学校理科の授業における探求的な授業展開と高校生の課題研究～問いに応えるということ～」

仁愛大学教授 西出和彦

「坂井市のICT活用」

上級CST 寺井澄人（坂井市教育委員会指導主事）

◆活動報告

「情報科学部 活動報告～3年ぶりの科学の祭典参加に向けて～」

中級CST 笹山 裕樹（福井市川西中学校）

◆卒業研究発表

「福井県東尋坊貫入岩体の岩石学的研究」

中級CST 受講者 大畑 颯人（教職大学院 M1）

◆新メンバー紹介と諸連絡 情報交換

◆ワンポイントセミナー

「小学校理科の授業における探求的な授業展開と高校生の課題研究～問いに応えるということ～」

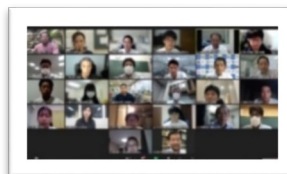
仁愛大学教授 西出和彦

現在、私は大学で小学校の教員養成に関する「理科」や「理科教育法」の授業を担当しています。以前は県立高校で勤務し、課題研究も担当していました。

最近の、探求的な活動を重視する流れの中で、自分のディスカッション力に課題を感じています。時折、問われた問いに対して答えていない自分に気付いて、ハッとすることがあります。問いは何なのか、その問いに対して、何を根拠に、どう答えるのが適切なのか、まだまだ的外れな自分に気付くことがあります。

そんなとき、人とディスカッションすることの重要性をつくづく感じます。

何を問われているのか。何を根拠に、どう答えたら良いのか。理科はそれらを考える最適な教科だと思います。



理科教育研究Cポイント取得機会（例）※HPをご確認ください

◇下中科学研究助成金（募集中）

CST事務局締切

令和4年度 11月14日(月)

◇中谷医工計測技術振興財団（募集中）

CST事務局締切

令和4年度 11月14日(月)

受講者だより

「学んだこと」

- 教育学から考える恐竜博物館の歩き方 ～親子で楽しむ博物館のススメ～

先端科学技術セミナー 福井県立大学（オンデマンド動画配信）
2022年7月1日 上級CST受講者

恐竜博物館を子供と歩く際には、本物に触れながら対話し深い学びへと誘う場の創造が必須となってくる。場の創造のために欠かせないのが、ニューヨーク近代美術館が開発したVTSという教育方法である。

ギャラリートークを終えた後、得た知識や思考が身に付かないという現状から生まれたものである。方法としては、アート作品を静かにじっくり見た後、「この作品の中で何が起きているのか」と問うた後に、「作品のどこを見てそう思ったのか」「もっと発見はあるか」という問いを繰り返すことで、対象者の思考力、言語力、記述力が高まるというものである。

解のないものに対して、主観を押し付けるのではなく、対象者に考えさせることが大切なのだと感じた。恐竜博物館でも同様に、いくつかの骨格標本を見比べながら、同じような問いを繰り返し、目の前のものやことに対して答えを授けるのではなく、一緒に歩く者と共有したという経験値を積み重ねることも同時に必要だと学んだ。

「CSTとして活かせること」

- 子どもの学びを「探求的」に変える

学校教育セミナー 福井県教育庁嶺南教育事務所（Zoom オンライン講座）
2022年8月3日 初級CST受講者

これからの社会では、自分で考えて行動できる人間が求められている。教科に関わらず、探求的な学習が求められており、子どもの学びを探求的に捉える力が教師には必要だ。子どもたちが自分で問いを立てて、その問いに向かって解決しようとする力をつけるために、探求的な授業を展開していきたい。

探究することは人間の本性であるが、現在の教育を受けているだけでは勉強は覚えることや解法を使うことになってしまう。探究することの楽しさを小さい頃からそのような活動に触れていなければ出来ないと思うので、子どもの好奇心をかきたてるような授業を作っていきたい。

◇講座情報◇

10/29(土) 【秋のキノコ観察会】（福井市自然史博物館）

11/08(火) 【皆既月食を見よう～天王星食と共に～】

（福井県自然保護センター）

お知らせ

日時 2022年11月25日(金) 19:00～20:50
会場 Zoomを活用したWeb会場（オンライン開催）
内容 ワンポイントセミナー①

「外来生物研究を通して環境保全活動の目的を考える」
福井県立大学 海洋生物資源学部 先端増養殖科学科
富永 修 特命教授

他3件

※内容に興味のある方が対象です。ぜひお誘いあわせのうえ事務局までお申し込みください。申込者にはIDとパスワードをお送りします。詳細はWebサイトをご覧ください。

第31回福井CST合同研修会 （第28回福井CST公開セミナー）

参加費無料
要事前登録

◆研究・実践報告の申し込み

締切:2022年10月31日(月)

◆参加の申し込み

締切:2022年11月22日(火)

CST News Report No.31 2022.9.30 発行

編集・発行・印刷 福井大学 CST 企画運営事務局
〒910-8507 福井市文京3丁目9番1号 ☎0776-27-9928

E-mail cstfukui@f-edu.u-fukui.ac.jp

HP <https://www.cst-fukui.net/>